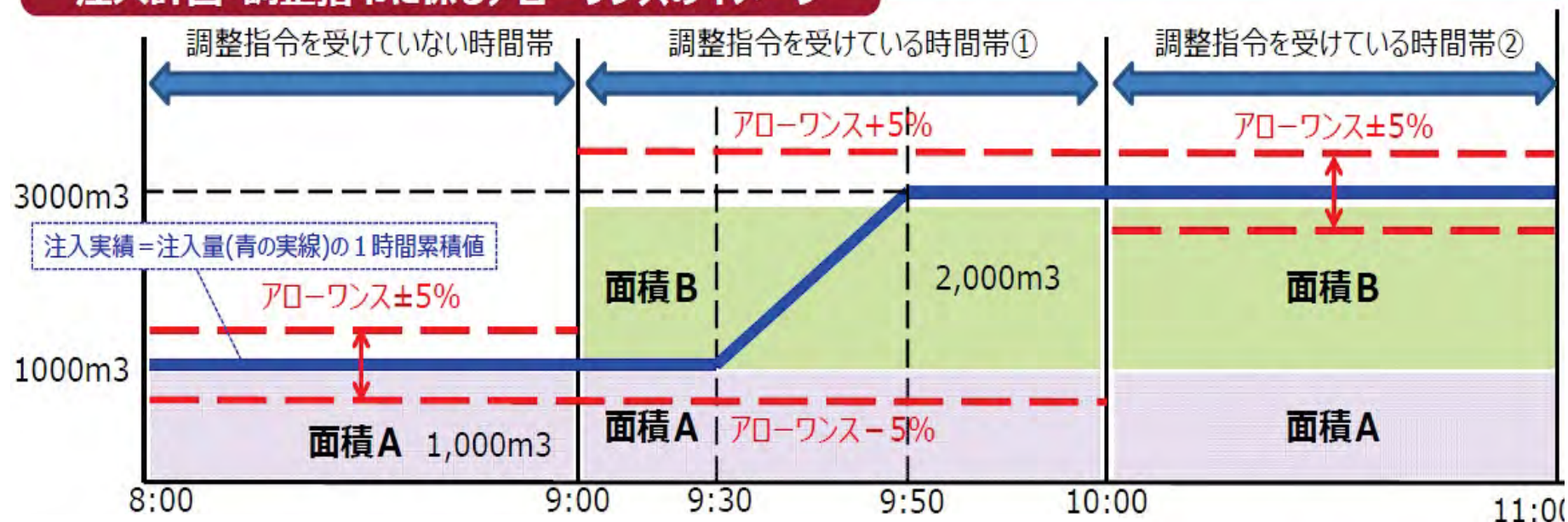


論点II (4) ガス事業におけるアローワンスの重要性

	精算主体	注入計画・調整指令と注入実績の差異	ペナルティ
調整指令を受けていない時間帯	小売X	面積A×(100-5)%<注入実績<面積A×(100+5)%	ペナルティなし
		面積A×(100-5)%>注入実績、面積A×(100+5)%<注入実績	ペナルティあり
調整指令を受けている時間帯①	製造X	面積A×(100-5)%<注入実績<(面積A+面積B)×(100+5)%	ペナルティなし
		面積A×(100-5)%>注入実績、(面積A+面積B)×(100+5)%<注入実績	ペナルティあり
調整指令を受けている時間帯②	製造X	(面積A+面積B)×(100-5)%<注入実績<(面積A+面積B)×(100+5)%	ペナルティなし
		(面積A+B)×(100-5)%>注入実績、(面積A+面積B)×(100+5)%<注入実績	ペナルティあり

注入計画・調整指令に係るアローワンスのイメージ



- ガス託送供給を行うためには、物理的にLNG基地と既存ガス会社（大阪ガス）の導管が接続されている必要がある。
- 現在、関西電力では、姫路基地近傍で大阪ガス導管に接続しているため、託送供給（ガス販売）が可能な範囲は、導管が途切れずに接続されている大阪ガス供給エリアと、大阪ガス導管と接続している地域ガス会社（ ）（大津市企業局・桜井ガス・大武・大和ガス・河内長野ガス・伊丹産業）の供給エリアに限られる。
- 大阪ガス導管と接続されていない地域ガス会社（五条ガス・篠山都市ガス・福知山ガス等）の供給エリアへの託送供給は不可。 地域ガス会社エリアへの託送供給については、設備面・運用面の協議が必要。



【凡例】

大阪ガス
供給エリア

地域ガス会社
供給エリア
（託送供給可）

地域ガス会社
供給エリア
（託送供給不可）

~~大阪ガス
ガス導管~~

~~地域ガス会社
ガス導管~~

出典：関西電力

論点II(5)

大阪ガスのガス導管整備計画

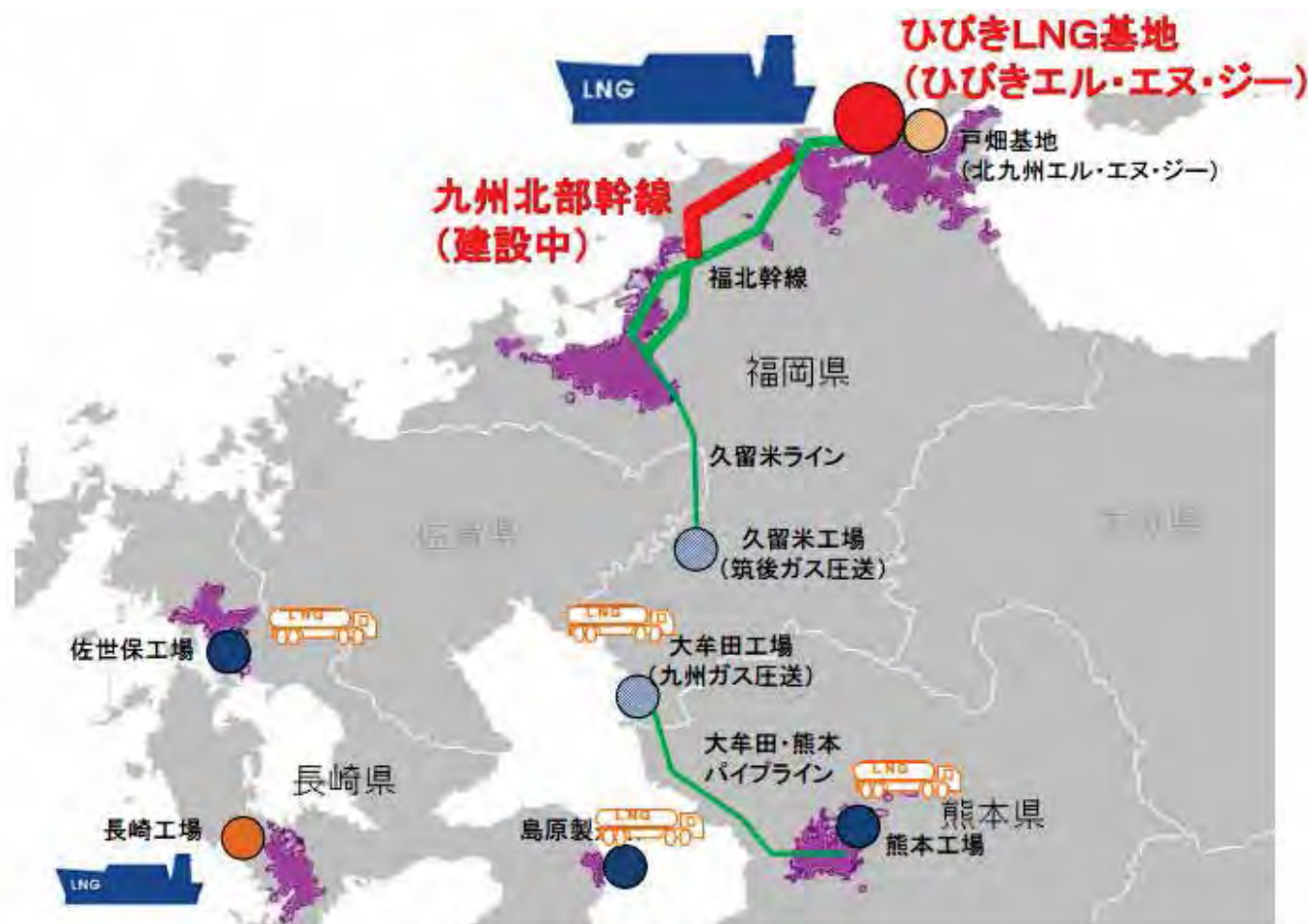
- 現在の供給計画では、発電所の燃料転換向けの新設及び既存パイプラインの補修を予定。

名称	区間	圧力	総延長	使用開始予定	種別
相生ライン	兵庫県相生市	高圧	2,800m	2016年3月	設置
第2東部ライン	泉大津市～四条畷市	高圧	11,300m	2019年9月	補修



出典:経済産業省

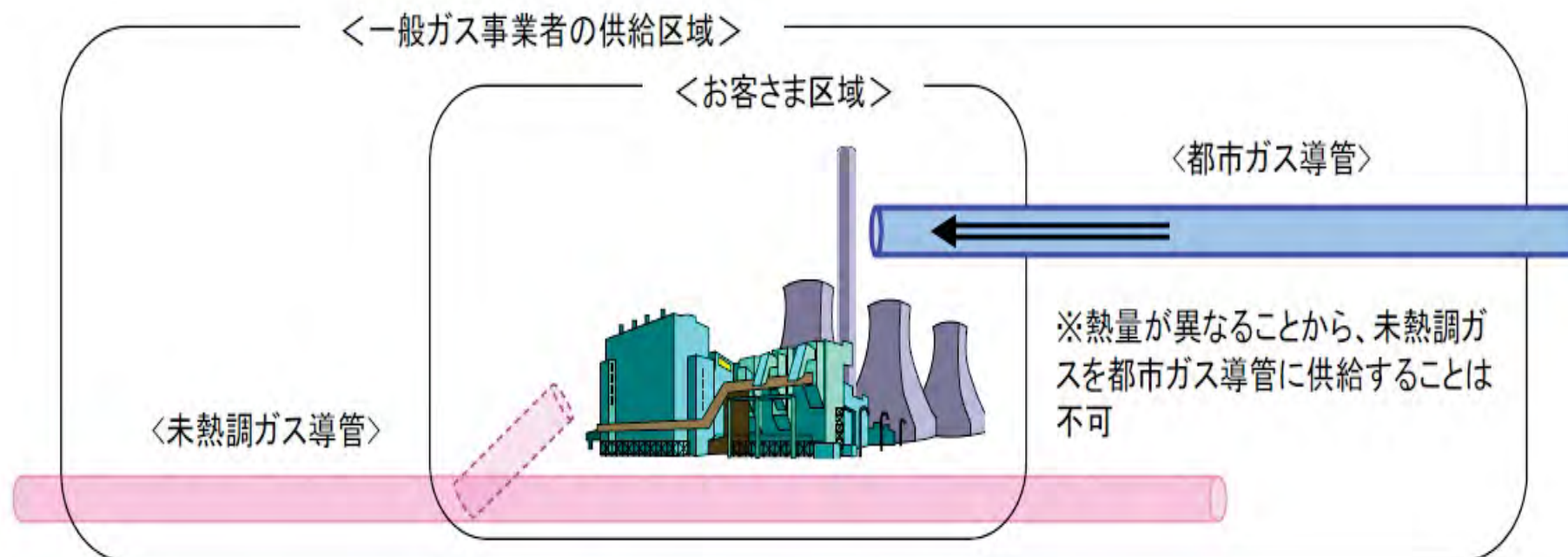
論点II(5) 西部ガスのガス導管整備計画



H26にひびきLNG基地が完成し、大型船運用による原料費の低廉化を実現。
今後は、福岡・北九州間の幹線を強化し、セキュリティの向上と需要拡大に対応。

論点II(6) ガス導管網の有効利用

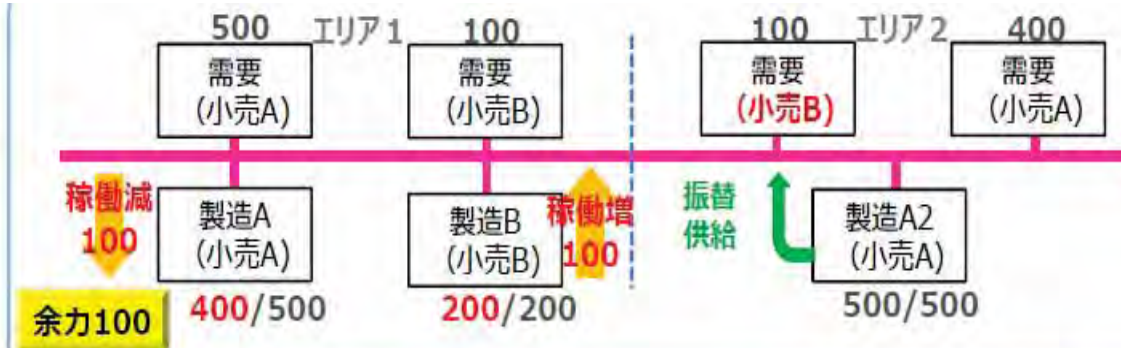
未熱調ガス供給による需要家選択肢の拡大と未熱調ガス導管も含めた全ての導管網の効率的な利用により、エネルギー全体のコスト低廉化に寄与



論点II (6) ガス事業における「振替供給」

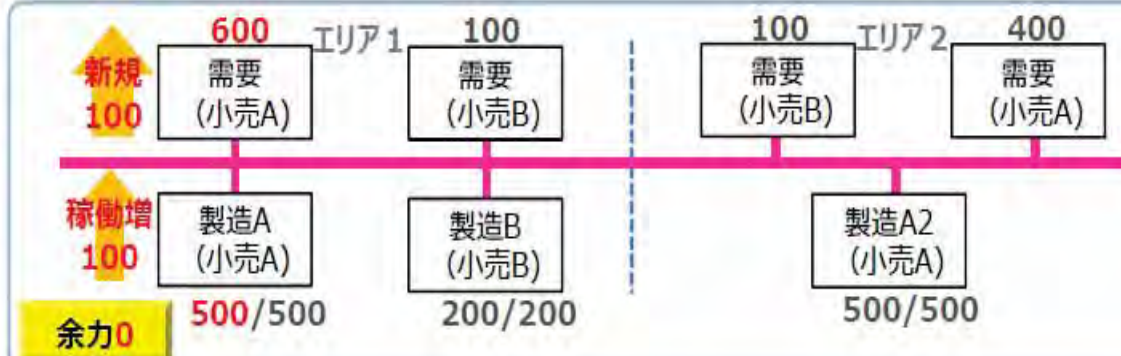
【STEP 1】

エリア2において、需要100が小売A→小売Bにスイッチ。小売Bは製造Bの稼働を100増加させる一方、小売Aは製造Aの稼働を減少させるとともに、製造A2から振替供給。



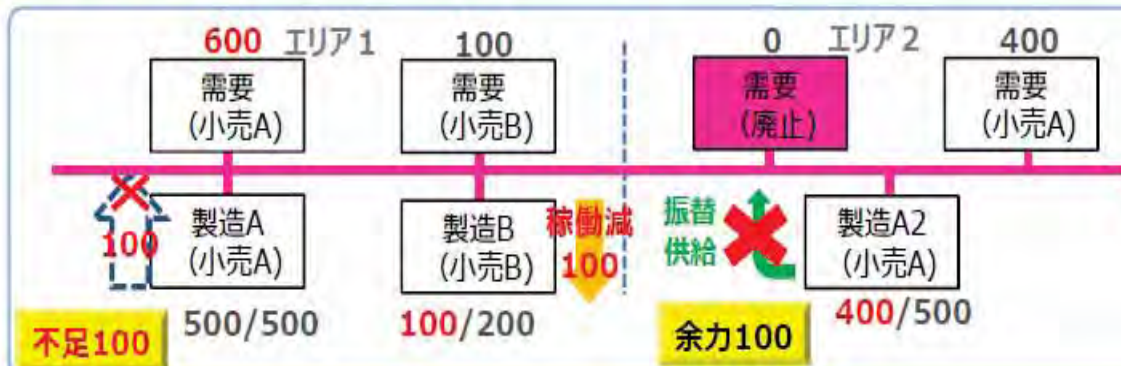
【STEP 2】

エリア1において、小売Aが新規需要100を獲得。小売Aが製造Aの稼働を100増加させた結果、製造Aの余力は0となる。(小売Aは全エリアで余力0となる。)



【STEP 3】

エリア2において、小売Bの需要100が廃止。その結果、小売Bが製造Bの稼働を100減少。小売Aがエリア1における安定供給を確保するためには、製造Aの稼働を100増加させる必要があるが、製造Aには余力がない。(エリア2の製造A2の余力は、エリア1では活用できない。)



出典:経済産業省